

報道によれば、東京駅本館ドームの復元が米側の横槍により入札が遅れ、その分着工も遅れる見込みであると言う。

更に別な新聞報道によれば、昭和初期の面影を残す三信ビルも取り壊されることが既に決定されている。当地界隈の古き良き建物が次第に消えてゆく。正に消えゆく昭和である。寂しい事である。



(鹿鳴館跡碑)

(日比谷公会堂)

(三信ビル)



(第一生命館)

(明治生命館)

(帝国ホテル)

昭和初期の建物で往時のままに現存するのは日比谷公会堂と三信ビルであろう。第一生命館(昭和 13 年竣工, GHQ)、明治生命館(昭和 9 年竣工、米極東空軍司令部&対日理事会の会場、重要文化財指定)は、昔の面影を残しつつ既にリニューアルされている。

三信ビルは、昭和 4 年に松井貴太郎設計、横河工務所施工で建設された。日本初の商業ビルであった丸ビルも新たな建物に変貌しつつあり、三信ビルが解体されるとなると古い商業ビルが姿を消すこととなる。

三信ビルは、鉄骨鉄筋コンクリート造の地下 2 階、地上 8 階で、地下 1 階～1 階は商店街、2 階から 8 階はオフィスとなっていた。1 階～2 階は所謂 2 層吹き抜けとなっており、この吹き抜けの扁平のアーチの天井には、もともと黄道十二宮の星座が描かれていた。戦火を免れたビルは戦後、連合軍司令部 (GHQ) に接収され、異国情緒あふれる飲食店や、輸入物の衣類や菓子を扱う店舗、貿易会社などが数多く入居した。然しながら、建物自体や設備の老朽化が進み、改装しても長期にわたる運営・管理は困難として、昨年 1 月に三井不動産が解体の方針を発表した。約 40 軒のテナントは順次退去し、今は、立入禁止となり記録作業が行われている。市民による保存プロジェクトが発足、活動しているが、今のところ解体の方針に変更はないと言う。

三信ビルの近くには鹿鳴館跡の碑文がある。本日やっと見つけることが出来た。碑文に曰く、「ここは、もと薩摩の装束屋敷の跡であって、その黒門は戦前まで国宝であった。その中に明治十六年鹿鳴館が建てられ、鹿鳴館時代の発祥地となった。」

鹿鳴館は、外国人接待所として明治 16 年に建てられた洋風煉瓦造り建築の社交クラブである。イギリス人コンドルの設計で、1883 年 (明治 16) 落成した。外務卿井上馨が不平等条約改正のため日本も文明国であることを示す必要があるとのことで計画を推進した。

1890(明治23年)年に宮内省に払い下げられ、一部は華族会館として使用された。鹿鳴館は7年余りの生涯を閉じたわけであるが、建物は、1894年(明治27年)の地震で被災し、修復後、土地・建物が華族会館に払い下げられた。

旧鹿鳴館の建物は、1927年(昭和2年)徴兵生命保険(現・大和生命保険)に売却されたあとも保存されていたが、1940(昭和15年)年に取壊された。

井上の鹿鳴館外交には退廃的、亡国の兆しとの非難・批判が付きまとった。確かに日本が文明国であることを示すために鹿鳴館を建設すると言うのはどう考えても全うな発想ではない。日本欧化の先駆的役割を果たした功はあろうが、姑息な手段・策を弄したことで蔑まれることはなかったであろうか。

尚、井上等の働き掛けにより、日本の迎賓館として、帝国ホテルが明治20年有限責任東京ホテル(資本金26万円)として開業した。

当地は何れにしても日本の表玄関だったわけである。

序に日比谷公園について、

日比谷公園は、幕末までは松平肥前守の屋敷地で、明治時代は陸軍練兵場であった。その後明治36年6月1日に日本初の洋式庭園として誕生した。

日比谷公会堂：日比谷公園内にある昭和4年に建てられ、日本のカーネギーホールと言われた公会堂である。今でもさまざまな催しが行なわれている。

日比谷公園大音楽堂：大正12年にできた日本初の本格的野外音楽堂。コンサートや集会が開かれている。